

平成30年度 徳島北高等学校 学校評価結果

保護者の皆様には、日頃から本校教育活動に格別の御支援・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では、年度当初に「学校評価計画」を作成し、その計画に基づいて教育活動を展開しております。昨年12月には、保護者・生徒・職員を対象にアンケートを実施し、本年度の成果について検証を行いました。

その概要をまとめましたので御覧ください。今後は、この結果を元に、教育活動の改善に取り組んでまいります。

アンケートに御協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

平成31年3月22日

徳島県立徳島北高等学校 校長 長篠 俊文

生活習慣・交通安全指導

評価基準(A十分達成できた,B概ね達成できた,C達成できなかった)

目標

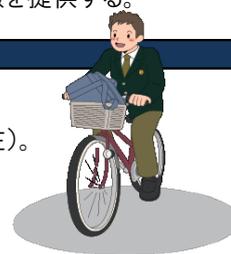
- ① 生活習慣(服装頭髪の整正, 時間厳守, 挨拶の励行)の確立, 健全な生活態度の育成
- ② 交通ルールへの遵守, 交通安全意識の向上
- ③ 携帯電話等の安全な使い方指導等, 情報モラルの育成

主な方策

- ① 月初めのクラス単位の服装頭髪点検, 学期初めの学年一斉指導を実施するとともに, 全職員による常時指導を徹底する。
- ② 遅刻指導週間を実施するとともに, 多遅刻生徒への指導を徹底する。
- ③ 職員による登校指導や生活委員会を中心とした「あいさつ運動」を充実させる。
- ④ 生徒の交通事故の状況について職員・生徒・保護者の間で共通理解を図れるよう, 情報を提供する。
- ⑤ 「人権教育ホームルーム活動」や「情報」の授業と連携した情報モラル教育を推進する。

数値目標・達成度・評価

① 服装頭髪の再点検指導生徒 0.5%以内(全体で5人以内)	① 1.1%であった	C
② 遅刻者数 前年度比 10%減(68人減)	② 0.7%減少した(2学期末現在)。	C
③ 登校指導 月1回, 「あいさつ運動」学期1回実施	③ 計画通り実施できた。	A
④ 交通事故件数 前年度(28件)の半減	④ 13件減少した。	A
⑤ 各関係機関と連携し携帯電話安全教室を年1回以上	⑤ 実施できなかった。	C



次年度への改善と方策

- ① 月初めの点検時だけでなく, 常日頃から清潔感のある着こなしができるように連携協力を図りたい。
- ② 雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加するといった傾向を解消する必要がある。
- ③ 「あいさつ運動」は来年度以降も継続したいが, 実施時期・時間を検討しなければならない。
- ④ 集会を通して注意を促したい。事故の状況や生徒の状況を分析し, 改善策を考えなければならない。
- ⑤ 関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。新学期の早い時期に「形態安全教室」を実施したい。

学力向上

目標

- ① 主体的な学習習慣の確立
- ② 確かな学力の育成

主な方策

- ① 進路説明会等で, 家庭学習の現状と重要性を保護者に理解してもらい, 協力を要請する。
- ② 生活学習記録表や生活実態調査を通して現状の把握に努めるとともに, 保護者と連携しながら担任が面談を実施し, 原因の解明と改善を図る。
- ③ 課題や確認テストを適宜実施し, 授業内容の理解, 定着を図る。
- ④ 補習の大切さを理解させ, 担任, 学年主任と連携し補習の出席率を高める。

数値目標・達成度・評価		
① 家庭学習時間(塾等での学習を含む)1時間以上の生徒80%以上、「(学年)+1」時間以上の生徒50%以上	① 1時間以上91.5%(休日89.6%),「(学年)+1」間以上49.8%(休日61.9%)であった。	B
② 「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身についている生徒70%以上	② 71.0%であった	B
③ 授業評価アンケートにおいて、「学校の授業内容をよく理解している」生徒80%以上	③ 74.6%であった	C
④ 1・2年生の補習出席率95%以上	④ 95.2%であった	B



進路指導・キャリア教育

目標		
① 主体的な進路目標の設定・進路決定をめざしたキャリア教育の推進		
② 生徒の個性や創造力を伸長させることによる進路希望の実現		
③ 地域社会に貢献できる人材の育成に向けたキャリア教育の推進・自主的な行動力の育成		
主な方策		
① あらゆる機会を通じて、自分の将来の生き方について考えさせるとともに、体験活動の広報に努め、参加を奨励する。振り返りを行うための各種様式を整える。		
② 「若楠」や「進路ニュース」を活用し、生徒や保護者への進路情報の提供を適切に行い進路意識の高揚を図る。		
③ 就職ガイダンスや公務員セミナーなどの実施を通して、主体的に自ら考える力を育て、その実現に継続的に努力できる行動力を育成する。		
数値目標・達成度・評価		
① 1,2年次にオープンキャンパス等の体験活動に1回以上参加した割合90%以上	① 73.1%であった。	C
② 2年生の11月進路希望調査で、進路目標が明確になっていると回答した生徒の割合95%以上	② 進路目標を持っていると全員が回答した(1月調査)。	A
③ 就職希望者の就職未決定者数ゼロ(2学期末)	③ 1月末に全員が就職先を決定できた。	B
次年度への改善と方策		
① オープンキャンパスについての情報を早めに提供して参加を促す。		
② キャリア教育を充実させ、校外の研究会や講座などへの積極的な参加を促す。		
③ 就職希望者には、2年生後半から進路決定に向けたフォローアップ体制やプログラムが必要と考えられる。		

心とからだの健康

目標		
① 自分の心やからだの健康についての関心を持ち、課題解決に向けて実践できる生徒の育成		
② 生徒がはつらつとして充実した学校生活を送れるための支援の充実		
③ 公共物をマナーを守って利用できるなどの公共心の育成		
④ 福祉的な募金活動への協力		
主な方策		
① 生徒保健委員会活動を推進し、保健意識の啓発・向上を図る。		
② 生徒に関する職員の共通理解に努め、生徒の支援をする。		
③ 公共心向上のための広報活動を推進するとともに、チェック体制を整える。		
④ 福祉的な募金活動を厚生委員の活動として計画し、厚生委員会活動の充実を図る。		
数値目標・達成度・評価		
① 「自分の心や健康に関心を持ち、健康な生活を心がけている」生徒の割合85%以上	① 82.9%であった。	B
② 「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者ともに85%以上	② 「健康管理に十分注意している」と回答した生徒82.5%、保護者88.2%、「配慮した指導が行われている」と回答した保護者84.8%であった。	B
③ セミナーハウスなどの施設利用について、正しく利用できたとの回答割合を90%以上にする。	③ 90%以上が正しい指導ができていると回答した。	B
④ 厚生委員会主催の大掃除を年2回実施	④ 1・2学期末に大掃除を実施した。	B
⑤ 福祉的な募金活動に年2回以上協力	⑤ 「複十字シール運動」、「手足の不自由な子どもを育てる運動」に協力した。	B
次年度への改善と方策		
①② 生徒が主体的に自己の健康管理に取り組めるよう支援する。そのために家庭連携を図る。		
③④ 利用する部活動とも連携し、さらに適正に利用できるよう注意し、定期的な点検を行うと共に、意識の向上に努める。		
⑤ 厚生委員会で学習会を行うなど、募金活動の意義や活動等について理解を深めてから実施したい。		



環境・防災教育

目標		
① 学校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力の育成 ② 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らの身を守るのみならず災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立てる人材の育成		
主な方策		
① 消灯・節水の徹底を呼びかける。校内及び学校周辺の清掃ボランティア活動を環境・防災委員や部活動生が中心となり、活動を積極的に行う。 ② 学校行事やホームルーム活動の時間を利用し、様々な危険や災害に自主的に対応できるよう防災意識の向上を図る。		
数値目標・達成度・評価		
① 校外で行われる環境美化及び環境問題に取り組むボランティア募集を呼びかけ、その参加者を12名以上とする。また、年3回以上の「ゴミ0の日」を設定し、環境問題について考えさせる。 ② 地震・津波避難訓練、火災避難訓練をそれぞれ年1回実施、校外で行われる防災関係の行事に参加する生徒を12名以上	① 随時は案内したが、とりまとめを学校でしない行事は参加者の把握ができなかった。「ゴミ0の日」の参加人数は、6月164人、11月64人、2月74人であった。 ② 案内はしたが、各自参加の行事が多かったのととりまとめをすることができなかった。	B B
次年度への改善と方策		
① 校内で行える身近なボランティアであることを周知し、参加者の増加を図る。校外で行われるボランティアについては参加者本人に申告させて実態を把握する必要がある。 ② 避難訓練の回数が少ない2、3学期こそ啓発の放送を増やしたり、防災に関する新聞記事を利用して防災に対する意識を高める。		

国際理解教育

目標		
① 国際交流に積極的に取り組み、グローバルマインドを持った生徒の育成 ② 異文化の中で生活できる機会の提供 ③ 海外姉妹校との活発な交流		
主な方策		
① 外国人の外部講師等を招いて、グローバルな視点に立った考え方や発信の練習をする。 ② 海外からの訪問団を積極的に受け入れるとともに、海外派遣プログラムなどの情報提供に努める。 ③ Eメール等を用いて姉妹校とのグループ交流を実施する。		
数値目標・達成度・評価		
① 異文化学習の機会を年2回以上提供 ② 海外語学研修参加者50名以上 ③ ニュージーランド・ドイツ・タイの姉妹校のなかでグループ交流を1回以上実施	① 2回の異文化学習を実施した。 ② 42名が参加した ③ ニュージーランド・ドイツとの交流はできているが、タイとはできなかった。	A B B
次年度への改善と方策		
① 異文化に関する生徒の交流会や意見発表会を実施することで、生徒が自分の意見を発信したり同世代の意見を聞く機会を設定したい。 ② 生徒や保護者にとって、より安価で安心して安全に海外研修ができる状況を検討していきたい。 ③ 次年度は、7月にドイツの高校生が来校するので、帰国後の交流について検討したい。		



人権教育

目標		
① 日々の教育活動を通じた生徒の人権意識の高揚 ② 全職員でいじめ防止をはじめとする人権教育の充実 ③ 職員の人権研修機会の充実による人権意識の高揚と啓発		
主な方策		
① 生徒が主体的に参加・体験できるホームルーム活動(人権)を実施する。 ② 教育活動全体を通じて、互いの人格を尊重し合える校内環境を整える。 ③ 研究授業を中心に学年別研修を行い、生徒にとって実りあるホームルーム活動にする。		
数値目標・達成度・評価		
① ホームルーム活動(人権)において、「人権意識が高まった」生徒の割合 80%以上 ② 「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合60%以上 ③ 「学校は好ましい人間関係の構築のため行事やHR活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合90%以上	① 「高まった」と答えた生徒の割合は、79.9%であった。 ② 読んでいる生徒の割合は53%であった。 ③ 生徒の回答は82%であった。	B C B

次年度への改善と方策

- ① 内容を深めていくホームルーム活動を進めるため、教員のホームルーム活動事前研修会の充実を図りたい。
- ② 「人権委員会だより」を人権委員に朗読させたり、内容・紙面のスタイルについて再考するなどの検討をしたい。
- ③ 「人間への信頼」を生徒の心の中に醸成できるよう、委員会だよりや生徒の自主活動を通じていじめを許さない学校づくりをめざす。

学校行事・生徒会活動・部活動

目標

- ① 学校行事(学校祭・球技大会等)の活性化を通じた自主的・自律的な行動力の育成
- ② クラスや部活動だけでなく幅広い人間関係の構築を図り、豊かな心を育成
- ③ 部活動の活性化を通じた個性・創造性の伸長と、何事にも前向きに取り組む態度の育成
- ④ 国際的な視野を広げ、社会に貢献する姿勢の育成

主な方策

- ① 生徒会役員が中心となり、全校生徒が各行事の企画・運営に取り組めるようにする。
- ② 学校行事の事前・事後にアンケートを実施し、今後の取組に生かす。
- ③ 新入生対象の部活動紹介を充実させる。各部活動で自主的で積極的な活動ができるよう工夫する。
- ④ 国際的視野の広がりにつながる講演会や社会貢献に通じる活動を計画する。

数値目標・達成度・評価

① 「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と答えた生徒の割合80%以上	① 86.9%であった。	A
② 「生徒は望ましい人間関係が構築できている」と答えた職員・保護者の割合80%以上	② 86.8%であった。	A
③ 「部活動は学校生活を充実させるものとなっている」と答えた生徒の割合80%以上	③ 78.7%であった。	B
④ 地球市民講座(講演会)で「国際的視野を持つことができた」と答えた生徒の割合80%以上、地域や社会貢献に通じる活動を年3回計画	④ 事後アンケート形式でなく感想文の形式をとったため、具体的数値はないが、世界情勢を知る大切さを考えることができている。	B

次年度への改善と方策

- ① 学校祭の日程や、体育祭の種目、予餞会の日程・内容について検討を要する時期にきている。
- ② 学校行事等で、ホームルームや生徒会などの活動を通じ、自主的な活動を推進し、生徒同士の人間関係を深めることができるようにしたい。
- ③ 部活動参加率は高いが、継続率について検討する必要がある。
- ④ 地球市民講座を来年度も開講し充実した内容となるよう準備したい。

読書啓発

目標

- ① 図書館利用を通して、読書習慣の育成を図ることによる主体的に学ぶ態度の育成

主な方策

- ① 様々なジャンルの図書を充実させ、「図書館だより」や館内外掲示で広報する。
- ② 各教科と連携して授業に活用したい本や生徒に読ませたい本を充実させ、図書館利用の推進を図る。
- ③ 図書館の利用状況、貸出状況を「図書館だより」等で適宜知らせる。

数値目標・達成度・評価

① 1人あたりの年間利用回数を8.0回	① 年間利用回数9.2回。	A
② 授業での利用回数をより50回	② 授業での利用回数85回。	A
③ 各教科や総合的な学習の時間での利用を推進する働きかけを学期に1回以上	③ 「購入希望図書カード」を学期に1回配布して図書館の本を利用した授業への推進を図った。	B

次年度への改善と方策

- ①②③ 3年の読書会を計画したり、総合的な学習の時間での図書館利用もさらに進めていきたい。授業での図書館利用をさらに推進したい。



学校関係者評価について

本校では、学校評議員会において学校評価結果を協議いただき「学校関係者評価」としています。平成31年3月13(水)本校において開催された学校評議員会では、次のような御意見・御提言がありました。

- ① 携帯安全教室で、ぜひスマートフォンの安全な使い方を指導してもらいたい。
- ② 生徒のいいところを教師が見つかることで、自己肯定感の醸成を図り人を大切にすることを育てられるのではないかと。
- ③ 防災教育や交通安全教育など、命を大切にすることを教育について、来年度も推進してもらいたい。
- ④ 家庭学習時間調査や生活記録を元に、面談を通して個々の生徒の指導に生かしてもらいたい。
- ⑤ 人権教育や特別支援教育についても課題を具体化し、しっかり取り組んでほしい。

これらの貴重な御意見・御提言を次年度に取り組みに生かしていきたいと考えています。

※ より詳しい学校評価については、3月末に学校ホームページに掲載する予定です。

このリーフレットについてのお問い合わせは、徳島北高等学校 学校評価委員会まで 電話 (088)698-8004